第１回県立日南病院を中心とした県南地域の公立病院のあり方検討委員会
議事録

１　日　　時：令和８年７月６日　１９：００～２０：００

２　場　　所：日南市役所付属棟　飫肥杉ＴＯＰ館

３　出席委員：委員名簿のとおり

４　委員長選出
委員の互選により、南那珂医師会長の中村委員を委員長に選出

５　副委員長選出
委員長の指名により、宮崎大学医学部附属病院長の賀本委員を副委員長に選出

６　議事内容
（１）あり方検討に係るこれまでの経緯について
当あり方検討委員会の設置の経緯や、県立日南病院及び日南市立中部病院の状況について事務局から説明。
委員からの質疑等はなし。

（２）県立日南病院及び日南市立中部病院の役割分担・機能分化について
株式会社日本経営から、日南串間医療圏の概況について、事務局から、役割分担の考え方等を説明。
委員からは、以下のような意見があった。

	＜日南串間医療圏の概況について＞
委員	診療科ごとのデータや疾患の種類等の分析が可能か。
事務局・（株）日本経営	今回は大まかな現状データを示したが、２回目の委員会において、両病院が具体的にどういった疾患に対応しているかの詳細な分析結果（ＤＰＣデータ等に基づくもの）を報告予定。
委員	ＤＰＣのデータは、急性期のものしか反映されず、中部病院の場合は実態に合わないため、レセプトのデータや、国保・社保のデータなど実診療のデータによる分析が必要である。
委員	県では、地域医療構想や医療計画を作る際に各病院にアンケート調査を行っており、５疾病についてデータを取得している。コンサルタントとも連携をしながら、どういったデータが集められるのか、必要に応じて本委員会に提示していくという形で進めてまいりたい。
委員	５疾病のうち、がんについては、均てん化・集約化が進められている。 診断はある程度どこでもできるが、治療についてはがんの種類やステージ、重症度に応じて内容が変わるため、両院のデータのみでは足りないと考えられる。 どのようなデータを活用するのか検討してほしい。

	＜県立日南病院及び日南市立中部病院の役割分担について＞
委員	診療科の重複について、役割分担を明確にする中で、中部病院が担わない診療領域が増えていくとなった場合に、病院の経営が成り立つか。 いわゆる総合診療医など一般内科を広く診るドクターだけが中部病院にいて、特化した専門領域は診ないということになると、病床規模や、適正な医師の配置など、様々な検討が必要となる。
委員	診療科だけではなく、医師の経験年数も踏まえた議論も必要である。 県立日南病院には約４０名の医師がおり、５０代以上の医師は１０名弱、経験年数が５年～１０年程度の若手医師３０名程度である。 急性期を全て担うことが求められた場合に、心臓や脳の急性期疾患を扱ったことがない若手医師が救急対応等を診ていかなければならない状況が出てくる。
委員	行政の視点として、パターン２やパターン１を選択した場合（資料１２ページ）、両院の経営がどう変化するのかという経営のシミュレーションを合わせて提示してほしい。 機能分化はできたが両院の経営がさらに悪化した、という事態は避けなければならない。
事務局	経営のシミュレーションも含めてコンサルタントと共に資料を整理し、次回以降提示していく。

（３）あり方検討委員会の今後の進め方について

事務局から、今後のスケジュールや議題について説明。

委員からは、以下のような意見があった。

委員	病院の経営面を考えると、必要な診療科やどれくらいの投資をするかという議論になる。 検討するに当たり必要なことではあるが、結果としてどうなるかというところで考えないと、最初から収益ありきで考えると前に進まないおそれがある。 日南串間医療圏として考えた時に、串間市の問題を切り離して議論を進めると、大学からの医師の派遣の面に影響が生じる可能性があるので、中部病院と日南病院の課題がある程度見えてきた段階で、早い時期に串間市民病院を含めた議論をしていただきたい。
事務局	本日は串間市にもオブザーバーで参加いただいているので、今後の進め方についても、串間市と相談しながら検討に含めてまいりたい。

7　閉会

次回は、医療需要調査の結果や中部病院の移転候補地を踏まえ、両院が担うべき医療機能や連携のあり方について協議を行うことを確認し、閉会。